

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500697		
法人名	特定非営利活動法人コスモス		
事業所名	グループホームコスモス(東ユニット)		
所在地	群馬県太田市藤久良68-5		
自己評価作成日	平成28年5月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族との連絡を密に取り、信頼関係を築いている。</p> <p>急変時などの対応は、主治医・訪問看護との連携が取れており、柔軟に対応できている。</p> <p>個別リハビリの実施で筋力低下の予防や、残存機能維持に力を入れている。</p> <p>一人一人の出来ることを生かした支援。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の理念を職員全員で共有し、職員全員が2ユニットを把握して、チームワークで実践に努めている。月1回、家族には利用者の様子を担当職員が「お便り」で知らせ、訪問時には職員から声かけをし、近状報告や生活記録を開示して関係づくりを行っている。そうしたなか、家族・親戚が事業所に集まり誕生祝を行うなど、協力関係が築かれている。また、自治会に加入し、回覧板を回したり、地域のクリーン作戦に参加したりするなど、日頃から地域住民との交流が行われている。その他、協力医の定期的な訪問診療や訪問看護サービスが導入され、医師と訪問看護師とが連携して適切な受診や看護が受けられるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域住民との交流、相互理解を深めていく事を入れており、毎朝の申し送り時に唱和し、職員一同の意識を共有し実践している。	尊厳・尊重、生きがい有る日々、地域交流などを理念に掲げ、共有に努めている。個々の利用者を思いやり否定しない、できることはしていただく、地域行事に参加するなど、日々の業務のなかで理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動、廃品回収、地区運動会、餅つき大会、地域のお祭り等、多様な行事に参加させて頂いています。天気の良い日は散歩に出かけ、地域の方との交流を楽しんでいます。	自治会に加入し、地域行事のバーベキューなどに参加している。施設長は、クリーン作戦に参加している。地域の祭りでは、休憩所として事業所の開放、学童クラブの児童のボランティア受け入れ、保育園児とのふれあい、毎朝の散歩での挨拶が行われている。また、地域の人を職員として採用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議を活用して、地域のお年寄り、独居の高齢者に対し、どんなことが出来るか話し合いながら取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況やサービスの内容について報告し、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、家族、区長、民生委員、市職員が参加して開催している。事業所は、利用者の様子やサービス内容の報告を行い、委員から要望や意見をもらうようにしているが、具体的な提案や相談はない。	事業所が抱えている課題について具体的に話し合い、率直な意見を聴取できる場として活用することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者は推進会議にも参加しており、その場を使ったり、必要に応じて市役所へ出向き、意見交換や電話相談もしている。	事業所は、市内に事業所を複数運営しているので、制度や対応面で迷う時には、運営推進会議や出向いて市の担当者に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り身体拘束ゼロを目指して取り組んでいるが、安全の為、やむを得ず玄関の施錠や、転倒防止の為、オーバーテーブルを使用している方もいる。	家族の要望から、安全の為、オーバーテーブルやY字帯を使用している利用者があるが、職員間で話し合い、利用者のストレスを最小限に留めるよう取り組んでいる。転倒防止のため、床にセンサーマットを使用して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全を優先し、玄関を施錠している。	玄関の施錠については、利用者の状況を考慮し、施錠しない時間帯についてを検討して頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのテキストを使用し、職員一同で勉強会をして学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用している方がおり、制度について理解しているが今後、職員全員で学ぶ機会を持つていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用者・家族が納得できるまで十分説明を行っており、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が気軽に意見を言える関係作りに努めている。推進会議での意見交換や、面会来所時にも常に声かけ、意見交換している。	家族の面会時に近状を伝え、生活記録を開示して、意見や要望を聴取するよう努めている。おむつ代金の負担軽減に多種のオムツを導入したり、家族や親戚が集まって事業所内で利用者の誕生会を行ったりと、利用しやすい施設を目指して努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の対応、運営に対する相談や環境整備についても随時相談を受け、検討するようにしている。	勤務体制や休憩時間、介護方法などを職員間で話し合い、施設長や管理者に相談している。また、利用者の居室や持ち込まれた位牌に花を飾るなど、職員の意見を日常の施設運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を持ち、向上心を持ってもらえるように助言をすると共に、環境整備も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種必要な研修に参加すると共に、個人で参加できる研修の紹介などもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換レベルアップ研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に施設を見学して頂き、環境や雰囲気を見て頂く。本人の不安や要望を聞きだす努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見も良く聞きとりして、安心して施設を利用していただけるよう努めている。職員に気軽に意見や要望を言える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としているサービスについて十分検討し、他のサービス利用も視野に入れて話し合い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることはして頂き、役割を持って頂くなど本人の得意分野を活かせるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出時に家族の協力が得られるときは同伴を依頼しています。施設行事(誕生会・夏祭り)にも可能な限り参加して頂き、また面会時に日々の様子をお伝えし、情報の共有化を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、馴染みの場所へ外出したり、親族・友人などが来訪しやすい雰囲気作りに努めている。	家族と一緒に買い物や食事に出かけている。以前住んでいた地域の隣組の人や、琴の師匠をしていた頃の弟子の訪問の際には、お茶を入れて歓迎している。また、職員が同行して教会の日曜学校に出掛けるなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性なども見極めながら、トラブルにならないよう配慮・気配りをし、ホールの席など皆が仲良く安心して過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じていつでも相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人の希望・意向をアセスメントし、把握している。困難な場合は家族の意向を交え、本人本位に検討している。	日々の生活の中で声をかけ、様子を観察して把握に努めている。意思疎通が困難な利用者については、家族と相談して検討している。視力障害のある利用者も一緒に菊花展の見学に出掛け、職員が言葉で状況を説明することで、共に昔を懐かしむなど、それぞれの思いを検討して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで今までの生活歴など、現在までの経過を把握している。センター方式も活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の現状を把握し、職員全員が情報を共有することで、その人にあったケアサービスの提供ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためのケアのあり方について、本人・家族・職員と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	職員は、面会時などの日頃からのかわりのなかで家族に利用者の状態を理解してもらい、本人や家族の意見や思いを取り入れて介護計画を作成している。計画実施が確認できる仕組みとし、介護記録に毎月モニタリング結果を記載している。6か月毎に再アセスメントし、関係者全員でプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で情報を共有できるよう、日々の様子・ケアの実践・結果・利用者の変化等を記録し、日々の支援や介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応して、柔軟な支援やサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に、誕生会などの時に催し物をして頂き、利用者に楽しい時間を提供して頂いている。地域の学童クラブとの交流も行っている。必要に応じて訪問歯科・訪問美容なども利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族から納得が得られたかかりつけ医により、月1回定期的に受診している。緊急時・急変時にはすぐ医師に連絡を取り、対応できる体制になっている。	内科及び歯科の協力医を持ち、希望者は毎月1回、訪問診療を受けている。これまでのかかりつけ医への通院は、家族同伴で受診している。家族同行が困難な場合、その他必要に応じて、職員が送迎し受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来所しており気になる症状などを相談し、診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時々、様子を見に行き情報交換をしている。家族の希望があり、医師の支援がある場合は退院してもらい当施設で療養して頂けるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	レベル低下が著しく見られる場合、かかりつけ医により今後起こりうる状態について家族に良く説明して頂き、家族に今後の意向を確認し当事者全員で話し合い、方針を決めている。	入居時に、重度化した場合の対応について説明し、事業所ができる事とできない事を伝えている。重度化した際には、医師から家族に説明し意向を確認している。医療依存度の低いケースにおいて対応しており、家族の協力体制や看取り対応の可能性を話し合いながら、医療と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、定期的に学ぶ機会を持っている。AEDの使用法や心肺蘇生法など。救急車の呼び方、対応などを職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、春と秋に通報・避難・消火訓練を実施し、利用者の避難状況を把握している。	年2回、避難訓練を実施し、区長及び民生委員が参加しているが、地域住民の協力体制は築けていない。次回の避難訓練に、地域住民の参加、協力を呼び掛けていくことを検討している。AED設置施設であることを知らせるポスターを、地域住民の目に見えるところに貼り出している。	避難訓練に地域住民の参加が得られるよう、運営推進会議等で検討し、更に協力体制が築けるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に合った声かけ・対応を行い、プライバシー・プライドを損ねる事のないよう配慮している。	本人の行動や話を否定せず、見守りと傾聴に努めている。見守りを強化し、情報を共有して、尊厳を重視した対応を行っている。呼称については、その人の希望通りの呼び方で柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い人には耳元で話しかける、分かりやすくゆっくり丁寧に説明するなど一人一人に合わせた対応を行い、本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、その人らしい生活を送れるよう支援している。本人の体調など様子を見ながら声かけし、本人の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はご家族に、本人の好むものを用意して頂いています。定期的に訪問美容が来て、本人の好みのヘアスタイルをオーダーしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、苦手なものは代替えて提供している。一人一人に合わせて、食べやすい形態でお出ししている。	食事介助を受ける利用者が多く、利用者と職員と一緒に準備や調理・食事をすることが難しい状況だが、理事長が利用者の目の前でうどんや蕎麦を打ち、食欲を高めたり、関心を引き起こしたりしている。また、医師に相談して食事形態を工夫したり、代替食を提供したり、嗜好調査を行ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた、食事量を提供している。水分摂取が不十分な場合は好みの飲み物で対応したり、むせやすい人はトロミをつけるなど飲みやすいように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、支援している。夜間はおむつ使用の方も、昼間はおむつを外しトイレに座って頂いている。	それぞれ様子など、それぞれの排泄のサインを見逃さず、穏やかな気分になれるよう声かけを工夫して、トイレに誘導している。それぞれの利用者にとって、便座に座ることのメリットとデメリットを職員間で話し合い、個別の支援方法を検討し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す為水分補給を強化したり、腹部のマッサージを行っている。必要に応じて医師処方便秘薬を内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望や気分に合わせて、入浴の声かけ・支援をしている。その方の体調・ペースに合わせ、気持ちよく入浴できるよう支援している。	入浴を拒むケースではその理由を探り、抵抗なく入浴できる方法を検討している。時間をおいて声かけしたり、対応する職員を替えたりと、気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴剤を使用して、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調に合わせて、居室で休んで頂いています。夜間安眠できるよう、昼間の活動を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人一人の内服薬について理解しており、薬の変更があった場合は1週間程症状の変化や副作用がないか状態を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割を持ってもらうことにより、得意分野を活かした作業で張り合いをもって頂けるよう支援している。天気の良い日には散歩に出かけ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩・受診・買い物等、希望に添った外出支援をしている。また家族に協力してもらい、本人の希望する場所に連れて行って頂いている。	毎朝、近所を散歩している。全員が交代で出られるように配慮している。車いすや視力障害の方も季節の花を見に出掛けたり、買い物に行ったりできるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失・盗難・勘違いなどによるトラブルを防ぐため、自己管理できる方以外は事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員見守りにて、自由にかけている。手紙は本人宛の物は、お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内外は季節の花々で飾られており、季節感を感じられるようにしている。照明は目に優しい暖色を設置し、トイレは自動点滅式になっている。暖房は床暖房完備となっている。	季節の花や置物、ベンチなどが配置されている中庭へは、回廊式の廊下やリビングダイニングから自由に入出することができ、空気清浄機を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールは食事の時以外は、自由に過ごして頂いている。ソファを気に入っている方も座ってらっしゃる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、使い慣れたものを好みの配置にいただいている。居室に植木鉢や花瓶を置き、毎日手入れをしている方もいる。	各居室には開閉式の天窓が設置され、風通しや採光がある。室内は、職員が適温管理している。家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ち込んだり、持参した位牌に花をたむけたりと、安らぎのある居心地良い居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・ホール等バリアフリーになっており、手すりも設置されている。歩行や車椅子の操作がゆったりできるようになっている。		